

■ **山川菊栄** **社会運動家。山川均の妻。母性保護論争で論壇に登場、<敗戦>後、労働省の初代婦人少年局長になった。**

やまかわきくえ

帝国議会始・1890 = 東京麹町で生まれる。旧姓森田。

母は水戸藩の儒者青山延寿の娘で東京女子師範第1回卒業生、父は開明的官僚という家庭に育ち、

日清戦争始・1894 = 4歳：

Bushidou・・1899 = **9歳**：

少女時代に家の競売に遭った経験から、社会問題に関心を抱くようになり、

日露戦争終・1905 = 15歳：

東京府立第二高等女学校時代に母方を継いで青山姓となる。、

アヲヲ 創刊・1908 = **18歳**：卒業して、女子英学塾(津田塾大学)に入学、

明治天皇没・1912 = 22歳：卒業すると、

第一次大戦始1914 = 24歳：_大杉栄の平民講演会や堺利彦の{平民社}などで、社会主義を学び、
*{青踏}に、伊藤野枝の廃娼運動批判への反論を投稿して知られる。

民本主義・・1916 = 26歳：_山川均と結婚。

ロシア革命・1917 = **27歳**：

本格政党内閣1918 = 28歳：_母性保護論争で社会主義の立場に立つ婦人論を展開して論壇に登場。

ポーツマス条約・1919 = 29歳：「婦人の勝利」、

大暴落・・・1920 = 30歳：平塚らいてうらの{新婦人協会}が結成されると、

原敬首相暗殺1921 = 31歳：_日本最初の社会主義女性団体{赤潮会}を結成、女性の権利確立と差別撤廃などに奮闘したが、

水平社結成・1922 = 32歳：_政府の弾圧により解散。

関東大震災・1923 = 33歳：_ベーベルの「婦人論」を初完訳、名訳とされる。

治安維持法・1925 = 35歳：_カーペンターらの著作を翻訳紹介する一方、
*名著とされる「婦人問題と婦人運動」などで、科学的社会主義に基づく婦人論、婦人運動理論を樹立した。
政治研究会婦人部で無産政党の婦人政策を提案し、評議会の婦人部テーゼも起草するなど大正期の無産婦人運動を理論的に指導した。労働組合婦人部設置論争、

円本時代始・1926 = **36歳**：

共産党事件・1928 = 38歳：_高群逸枝とアナ=ボル論争を展開した。この頃から言論活動に専念、

満州事変・・1931 = 41歳：

国際連盟脱退1933 = 43歳：「女性五十講」、

芥川直木賞始1935 = **45歳**：

二二六事件・1936 = 46歳：鎌倉に移住し、鶏の飼育を発展させ、

日中戦争始・1937 = 47歳：_夫均が人民戦線事件で検挙され、留守を守って1年半の農村生活を体験、その間、「わが住む村」「武家の女性」などの民俗誌を書いた。

日米開戦・・1941 = 51歳：

年金+総武装 1944 = **54歳**：

敗戦・・・1945 = 55歳：

新憲法施行・1947 = 57歳：_社会党に入党、新設された労働省婦人少年局の初代局長となった。

独立回復・・1951 = 61歳：_退任し、月刊誌{婦人のこえ}を主宰。

TV放送始・・1953 = **63歳**：

安保闘争・・1960 = 70歳：

全国総合計画1962 = **72歳**：_廃刊後、田中壽美子らと、婦人問題懇話会を設立。

ドクサツ・・1971 = **81歳**：

日中国交回復1972 = 82歳：_新しい時代を生きた母娘の記録「おんな二代の記」を書き、

角栄金脈辞任1974 = 84歳：_「覚書幕末の水戸藩」で、第2回大仏次郎賞を受賞して、

貿易摩擦問題1980 = **90歳**：_没した。

「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、「女たちの20世紀・100人」、「日本の女性」、